

令和3年度「自己点検・自己評価」 前年度評価結果との比較

【評価基準】 4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

I. 教育理念・目標

※網掛け・下線部分：昨年度評価と異なる箇所

評価項目	R2年度 自己評価	R3年度 自己評価
1. 理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特徴が明確になっているか）	4	4
2. 学校における職業教育の特色は何か	4	4
3. 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	4
4. 学校の理念・目的・人材育成像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	<u>3</u>	<u>4</u>
5. 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3	<u>4</u>
平均点	<u>3.6</u>	<u>4.0</u>

II 学校運営

評価項目	R2年度 自己評価	R3年度 自己評価
1. 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	4
2. 事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4	4
3. 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	4
4. 人事・給与に関する制度は整備されているか	4	4
5. 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	4
6. 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	4
7. 教育活動等に関する情報公開が適正にされているか	<u>3</u>	<u>4</u>
8. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3	3
平均点	<u>3.8</u>	<u>3.9</u>

III 教育活動

評価項目	R2年度 自己評価	R3年度 自己評価
1. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	4
2. 教育理念、人材育成像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	4
3. 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	4
4. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3	3
5. 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	4
6. 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	<u>3</u>	<u>4</u>
7. 授業評価の実施・評価体制はあるか	4	4
8. 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	4
9. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	4

10. 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3	3
11. 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3	3
12. 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務をむ)を確保するなどマネジメントが行われているか	4	4
13. 関係分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	<u>3</u>	<u>4</u>
14. 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	4
15. 教員の研究活動を保障(時間的・財政的・環境的)しているか	4	4
16. 教員の研究活動を助言・検討する体制を整えているか	4	4
平均点	<u>3.7</u>	<u>3.8</u>

IV 学修成果

評価項目	R2年度 自己評価	R3年度 自己評価
1. 就職率の向上が図られているか	4	4
2. 資格取得率の向上が図られているか	<u>3</u>	<u>4</u>
3. 退学率の低減が図られているか	<u>3</u>	<u>4</u>
4. 卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	3	3
5. 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	<u>3</u>	<u>4</u>
平均点	<u>3.2</u>	<u>3.8</u>

V 学生支援

評価項目	R2年度 自己評価	R3年度 自己評価
1. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	4
2. 学生相談に関する体制は整備されているか	4	4
3. 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	4
4. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	4
5. 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	4
6. 学生の生活環境の支援は行われているか	4	4
7. 保護者と適切に連携しているか	<u>3</u>	<u>4</u>
8. 卒業生への支援体制はあるか	4	4
9. 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3	3
10. 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	<u>3</u>	<u>4</u>
平均点	<u>3.7</u>	<u>3.9</u>

VI 教育環境

評価項目	R2年度 自己評価	R3年度 自己評価
1. 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	4
2. 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3	4
3. 防災に対する体制は整備されているか	3	4
平均点	3.3	4.0

VII 学生の受け入れ募集

評価項目	R2年度 自己評価	R3年度 自己評価
1. 学生募集活動は、適正に行われているか	4	4
2. 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	4
3. 学納金は妥当なものとなっているか	3	3
平均点	3.7	3.7

VIII 財務

評価項目	R2年度 自己評価	R3年度 自己評価
1. 中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	3	3
2. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	4
3. 財政について会計監査が適正に行われているか	4	4
4. 財務情報公開の体制整備はできているか	4	4
平均点	3.8	3.8

IX 法令等の遵守

評価項目	R2年度 自己評価	R3年度 自己評価
1. 法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	4
2. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3	4
3. 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3	3
4. 自己評価結果を公開しているか	4	4
5. 学生や保護者が自由に意見を言える体制が整備されているか	4	4
平均点	3.6	3.8

X 社会貢献・地域貢献

評価項目	R2年度 自己評価	R3年度 自己評価
1. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	<u>3</u>	<u>4</u>
2. 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	<u>3</u>	<u>4</u>
3. 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	<u>3</u>	<u>4</u>
平均点	<u>3.0</u>	<u>4.0</u>

XI 国際交流（必要性に応じて）

評価項目	R2年度 自己評価	R3年度 自己評価
1. 留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか	3	3
2. 留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	3	3
3. 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	3	3
4. 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3	3
平均点	3.0	3.0

令和3年度重点的目標評価

1. 質の高い教育実践

- 1) 看護師国家試験合格 100%を目指す
 - ・1年次より学習支援を行い、学習習慣が身につくように指導する
 - ・3年次クラス全体の国家試験対策の他、成績不振者に対しては個別に学習支援を行う
- 2) カリキュラム改正に向けた準備
 - ・関東信越グループの共通カリキュラムをもとに当校のカリキュラムを作成する
- 3) 教員の教育力の向上
 - ・看護教員能力開発プログラム（TAD）による教員個々のキャリア育成
 - ・学内演習前の検討

【評価】

- 1) について
 - ・国家試験合格に向けて1年次は基礎学力テスト、2年次は低学年用模試、3年次は全国模試を行い、学生個々の学習状況に合わせて個別面談・学習支援を行った。また、3年生に対しては全学生にチューターを設けて個別学習支援を行った。
 - ・成績不振者に対する支援として、成績返却時等の機会毎に学習強化の必要な学生に対して個別相談や学習方法の指導を行った。3年生で成績が伸び悩んでいる学生に対しては、受験ギリギリまで補習講義と必修対策を繰り返し行った。結果、第111回看護師国家試験の自己採点では全員が必修40点以上とれ、一般・状況設定の最低点が180点であった。
 - ・昨年度に引き続き1年次から学習支援を行っているが、年々学生間の学力差が広がってきており、学習習慣が身についていない学生に対し個別学習支援を行っても短期間の努力に留まり、自ら継続した学習につながらない傾向がある。成績不振の学生の多くに読解力や集中力にややかける面がみられるので、学生の傾向に合わせた指導方法の工夫や継続した学習につながるように体系的な学習支援をしていく必要がある。
- 2) について
 - ・関東信越グループの共通カリキュラムをもとに当校のカリキュラム検討を6月から行った。シラバス検討に時間を要し、実習についての検討が十分にできなかった。令和5年度からの実習に合わせて実習内容を再検討し、実習施設変更申請を行っていく。
- 3) について
 - ・各教員に看護教員能力開発プログラムのラダー申請をしてもらい教員の能力開発に取り組んだ。また、他校の教員も参加する研究授業を行い、教授方法のスキルアップに努めた。
 - ・学内の演習前の教員間での検討は、授業準備に時間を要し教員会議の中での検討は行えたが、実習室内での検討は授業までに応援教員が一同に会する時間的ゆとりが持てず4科目のみの実施となった。次年度はもう少し余裕をもって計画・実施していきたい。

2. 学習環境の整備

- 1) 遠隔授業のシミュレーションを行う
- 2) 計画的に図書・教材の更新・整備を行う

【評価】

- 1) について
 - ・昨年度、学校内のインターネット環境整備を行い遠隔授業の環境は整ったが実際に実施することはなかった。今年度は新型コロナの感染拡大防止のため県外在住の講師による遠隔授業を行い、教員1名が新潟県実習指導者講習会の講義をオンラインで行った。
 - ・また、今後の感染動向によってすぐに遠隔授業が開始できるように事前シミュレーションとして実際の授業をオンラインで行った。
 - ・Zoomでの始業式、終業式、行事のライブ配信、保護者面談、WEB説明会、研修会の運営等、インターネットの活用は有効にできているが、全教員が遠隔授業の経験ができていないので次年度も引き続き遠隔授業のスキルアップができるようにしていく。
- 2) について

- ・プロジェクターの老朽化がみられたので今年度4台のプロジェクターを更新した。また HDMI ケーブルに変えたことにより映写画質が向上した。
- ・図書は古いものが多いため新刊図書を購入したが、一度には更新できないため次年度以降も計画的に図書の更新をしていく。

3. 健全な学校経営

1) 入学定数の100%充足

- ①指定校推薦・推薦入学の推薦基準、試験科目等の見直しを行い、入学定員の5割以上の入学者を集められるようにする
 - ・自己推薦入学試験の導入
- ②社会人志願者、一般入学試験の志願者数を増やす
 - ・県外の学生に向けたアプローチ
 - ・社会人入学試験のPR
 - ・一般入学試験を3日程設ける
- ②広報活動の強化
 - ・年間プログラムに沿ったHPの更新
 - ・直接参加型学校説明会とWEB学校説明会のW企画・開催
 - ・学生募集要項の郵送および県内高等学校訪問
 - ・スマホ対応のHP仕様、業者広告の検討

2) 働きやすい職場環境

- ・ワークライフバランスの推進
 - ・業務便覧活用により業務の標準化を図る

【評価】

1) について

- ・指定校推薦・推薦入学の推薦基準、試験科目の見直しを行い、信州上田医療センターの指定校より5校当校の指定校に移管した。指定校推薦では13名、推薦では11名、計24名で定員の6割以上の入学が決まった。次年度も指定校推薦・推薦入学から入学定員の5割以上の入学者を集められるようにしていく。
- ・今年度の自己推薦入学試験の導入も計画していたが、新たに長野県の指定校を設けたため、今年度は一般推薦入学試験枠内のままとし、長野県内の高校からの志願状況を見て、次年度以降に自己推薦入学試験の見直しをする。
- ・社会人入学試験に対しては受験科目の見直しにより、筆記試験を国語・数学・英語の3科目から国語のみの1科目に変更したことにより、昨年度受験者1名から3名まで増えうち2名入学した。
- ・一般入学試験はA日程、B日程、C日程の3日程設けた。昨年度は2回の2次募集含め計5回の入学試験で志願者32名だったのに対し、今年度は計画した3回の入学試験で志願者35名であった。コロナ禍でWEB学校説明会の開催が多い中、感染予防策を徹底した上で直接参加型の学校説明会を実施したことが功を奏したと考える。また、遠隔地在住者や新型コロナの感染予防のため直接学校にこられない受験生に対しWEB説明会を実施し6名の参加があった。
- ・昨年度、受験生が激減した要因の一つとして新型コロナ感染拡大防止のため高校訪問ができなかったことの影響が考えられるため、今年度は県内の指定校と長野県の指定校を全教員で直接訪問し学校のPRと学生募集を行った。
- ・HPのリニューアルに向けて4月から作業を行い10月に公開した。リニューアル公開後、県外からの問合せも多くなりHPを通して資料請求する受験生や保護者も増えてきている。また、HPの更新作業が学内でできるようになりタイムリーな情報更新ができている。今後も計画的に情報更新をしていく。
- ・県外を含め遠方からの入学生が増えたことで入寮希望者が全員入寮できない事態が発生している。希望に添えない入学生・保護者に対しては電話で説明し承諾を得ているが、中には寮に入れないことを理由に入学辞退を申し出た者(1名)がいた。次年度も同じ状況が発生しないように何らかの対策を講じていく必要がある。

2) について

- ・業務便覧を作成したが、カリキュラム改正や新潟県教員の会の当番校業務等のイレギュラーな業務によりあまり有効活用できていない。年度末に再度見直しを行い業務の標準化ができるようにしていく。
- ・また年休取得は平均13日だったが担当する業務によって個人差が見られた。引き続き、働きやすい職場環境の改善に努めていく。